

2023～ 高齢者福祉研究 I	単位数	履修方法	配当学年
	2単位	SR	1・2年
	担当教員	石附 敬	

※この科目は、2023年度以降入学者に対して開講されている科目です。2022年度以前入学者は履修できません。

■授業のテーマ

老いの諸相と高齢者支援の課題

■授業の目的

- 1) 社会老年学 (social gerontology) を中心とした老いに関する諸理論、超高齢社会の課題について学ぶこと。
- 2) 高齢者の生活を支える地域包括ケアシステムの理論と課題について学ぶこと。

■授業の到達目標

- 1) 老いに関する諸理論について理解し、身近な事例を題材に検討することができる。
- 2) 超高齢社会の課題について、考えを述べることができる。
- 3) 地域包括ケアシステムの理論と課題について述べることができる。

■授業の概要

日本の老年人口比率は29%を超え、4人に1人が高齢者となり、さらに男女ともに多くの人が人生80年以上を享受できる時代となった。一方で、家族機能の脆弱化、高齢者のみ世帯の増加など、高齢者を取り巻く環境は厳しさを増している。今後、人々が安心して高齢期を迎えることができるために、何が必要なのか？

本講義では、①まず初めに、社会老年学を中心とした老いに関する諸理論の学びを通じて、幸せに老いるためには何が重要なのかについて、身近な事例も活用して考えていく。②次に、人々がそれぞれ相応しい場所で老いていく (aging in place) ことを支える、地域包括ケアシステムの理論と現状について学ぶ。

■在宅学修15のポイント

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
1	老年学とは	老年学の定義、テキストの構成	老年学はどのような学問であるか学ぶ。 【テキスト1)の序章】
2	老年学の研究方法	実証研究のプロセス、文献レビュー、量的・質的研究	老年学の研究方法について学ぶ。 【テキスト1)の第1章】
3	老いと社会	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、エイジズム、社会参加	老年社会学の理論と、高齢期の社会関係について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト1)の第4章】
4	老いと健康	老化と寿命、老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病	老化にともなう身体の変化、高齢期の傷病の特徴について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。【テキスト1)の第2章】
5	老いと心理	生涯発達、感覚、記憶、孤独、コミュニケーション	老化と障害発達、感情と孤独、について学び、高齢者や家族への支援との関連性について考察する。 【テキスト1)の第3章】
6	高齢者と家族への支援、死生学	高齢者と家族を支える制度、福祉の実践方法、死生学	高齢者と家族を支える制度と支援方法について学ぶ。【テキスト1)の第5、6章】

	学修のテーマ	学修内容(・キーワード)	学びのポイント
7	事例検討①	オーラルヒストリー	あなたが幸福だと思う身近な高齢者に、幼いころから今までの人生について話を聞いてみてください。そして、老いの諸理論を用いて、その方がなぜ幸福でいるのか、高齢者やその家族への支援を展開する上での視点について考察してください。身近に対象者がいない場合は、高齢者の人生が書かれた書籍を読んで考察してください。
8	事例検討②	オーラルヒストリー	つづき
9	地域包括ケアシステムの背景	日本の現状と背景	地域包括ケアシステムに関して、日本の現状と背景について学ぶ。 【テキスト2）第1章】
10	地域包括ケアをめぐる議論①	integrated care、定義	地域包括ケアの重要な理論である integrated care とチームアプローチについて学ぶ。【テキスト2）第2章1節】
11	地域包括ケアをめぐる議論②	2006年モデル、2012年モデル	日本における地域包括ケアシステムの変遷についてまとめてください。 【テキスト2）第2章2節】
12	地域包括ケアシステム構築の方法①	諸外国の例	諸外国の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。 【テキスト2）第3章1節】
13	地域包括ケアシステム構築の方法②	日本の例	日本の例を基に、地域包括ケアシステム構築の方法について学ぶ。 【テキスト2）第3章2節】
14	地域包括ケアシステムの課題①	認知症高齢者の在宅支援	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。 【テキスト2）第4章1節】
15	地域包括ケアシステムの課題②	ケアマネジメント、評価体制	地域包括ケアシステムの課題について学ぶ。(つづき) まとめとして、あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを用いて考察する(「レポート課題」の課題1に相当)。【テキスト2）第4章2～3節】

■スクーリング事前課題(学修時間目安:35時間以上)

- 1) 「在宅学修15のポイント」の1～14までを学修し、その内容をA4・3枚程度にまとめる(対面の演習の1週間前に提出)。
- 2) 「レポート課題」の課題1について、「アドバイス」の課題1を参考にして、4,000字程度にまとめること(「在宅学修15のポイント」の15に相当。対面の演習の1週間前に提出)。

■スクーリング授業計画

	授業の内容	授業の方法
1	本科目の概要、学修の進め方、事例研究の方法について共通理解を図る。受講生は、本科目の概要等を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
2	日本の社会の高齢化の現状と諸課題について講義する。受講生は、日本の社会の高齢化の現状と諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
3	老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題について講義をする。受講生は、老年社会学の理論、高齢期の社会関係、高齢期の諸課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
4	老いの総合的理解、オーラルヒストリーを基にして講義する。受講生は、老いの総合的理解、オーラルヒストリーを理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
5	高齢者保健福祉の発展過程について講義する。受講生は、高齢者保健福祉の発展過程を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
6	地域包括ケアシステムとその課題について講義する。受講生は、地域包括ケアシステムとその課題を理解し、確認テストに解答する。	オンデマンド
7	各自取り組んだオーラルヒストリーを素材にした対象高齢者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
8	(7回に続き)各自取り組んだオーラルヒストリーを素材に対象利用者の事例を基に、老いの諸理論、ソーシャルワーク理論・アプローチを活用した考察、高齢者と家族への支援の課題について発表、グループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

	授業の内容	授業の方法
9	各自の居住地の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習
10	(9回に続き) 各自の居住地の地域包括ケアシステムの現状と課題について統合理論とチームアプローチに関連付けた考察を基に、発表とグループディスカッションを行い、理解を深め、実践活用を図る。	対面の演習

■スクーリング事後課題（学修時間目安：30時間以上）

「レポート課題」の課題2について、「アドバイス」の課題2を参考にして、4,000字程度にまとめること（受講した年度の1月までに提出。当年度の締切日を確認すること）。

■レポート課題

課題1 (事前課題の2)	あなたが幸福だと思う身近な高齢者の人生を事例として、その方がなぜ幸せな老後を過ごしているのか、老いの諸理論を用いて考察してください。
課題2 (事後課題)	地域包括ケアシステムとは何か。そして、日本に導入された背景と、これまでの変遷について述べなさい。

■アドバイス

**課題1
アドバイス** 高齢者（できれば後期高齢者が望ましい）に、その方の幼少期から高齢期までの人生を何回かに分けて（1回当たり1時間以内）聴いてみてください。ポイントはあなたの質問に対して、自由に語っていただくことです。聴きとった内容をもとに、その方の人生をオーラルヒストリーとしてまとめてください（これは提出の必要はありません）。これを事例として、レポートではオーラルヒストリーを簡潔にまとめて、老いの諸理論を活用して考察を述べてください。文中では個人が特定できないよう、仮名やアルファベット表記などで匿名としてください。該当する協力者が得られない場合は、高齢者の人生について書かれた書籍を事例として使用してください。

**課題2
アドバイス** テキスト2)を丁寧に読んで、要点をまとめてください。また、厚生労働省のHPや参考文献で提示した特集論文なども参考にすると良いでしょう。

■評価の方法・基準

- ・事前課題レポート（15%×2）
- ・全スクーリング（50%）
- ・事後課題レポート（20%）

■参考文献（*印=大学から送付される必読図書）

- *1) 杉澤秀博、長田久雄、渡辺修一郎、中谷陽明編著『老年学を学ぶ 高齢社会の学際的研究』桜美林大学出版会、2021年
- *2) 筒井孝子著『地域包括ケアシステム構築のためのマネジメント戦略』中央法規、2014年
- 3) Robert C. Atcheley & Amanda S. Barusch (2004) Social Forces and Aging: An Introduction to Social Gerontology 10th ed. Thomson Learning. (= 2005, 宮内康二編訳『ジェロントロジー～加齢の力学～』きんざい.)
- 4) 「特集 地域包括ケアシステムの構築と深化；課題と展望」『老年社会科学』39巻4号、p.415-459、日本老年社会学会、2017年